

平成 22 年度学校評価計画表

<p>1 学校教育目標</p> <p>県立学校における教育指導の重点や取組の方向等に則り、「地域に根ざした活力ある学校」～いつまでも心に残る一番大切な学校～を、目指す学校像とする。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 授業の充実 思考力・判断力・表現力等を確実にほぐすために、わかる授業を一層推進し、学習意欲の向上を図り、学習習慣を定着させ、自主的・意欲的に学習する生徒を育成する。</p> <p>(2) 生徒の進路保障 高い志をもって自己実現を果たすため、体験的な学習やキャリア教育などを通し、進路目標を明確に持たせ、自らの未来を切り拓く生徒を育成する。</p> <p>(3) 人権文化の創造、道徳教育の充実 社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を、発達段階に応じた指導や体験を通して確実に身に付けさせるとともに、人間としての尊厳、自他の生命の尊重や倫理観などの道徳性を養い、豊かな人権感覚を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>(4) 環境教育の充実 現在、地球規模で発生している環境問題について、その原因・実態・防止策などを認識させ、普段から環境問題の重大性を意識できる生徒を育成する。</p>

3 自己評価総括表						
	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校組織力の向上	校務分掌や委員会が連携しながら教育目標を達成しようとしているか	自己評価制度を積極的に機能させる。	適宜面談を実施し、達成状況を確認する。	B	運営委員会等各種部会の効率的運用とゆうネットによる情報の共有ができた。自己目標の認識を強化する。
	教職員の資質向上	質の高い授業を提供しているか 最新の教育的課題を踏まえた教育実践をしているか	教科指導力を向上させる。 校外内の研修に積極的に参加させ、職能成長を高める。	相互評価、日常的参観 計画的な職員研修、対外研修成果の校内報告・実践 TT授業 の実践と研究推進	B	異教科間TT授業の実践によって、授業の工夫改善と指導力の向上を図ることができた。年間を通して継続的に実施することが課題である。
	開かれた学校作り	保護者や地域との連携を図り、学校教育や行事等に関する情報を発信し、説明責任を果たしているか 学校関係者の	学校の状況・生徒の活躍等を外部に積極的に発信する。 指摘内容を検	学校HPの更新 学級通信、「広報たかもり」等迅速で適切な情報の提供、PTAや同窓会との連携 保護者アン	A	学校ホームページの鮮度を大切にし、タイムリーな情報の提供を図っている。学校行事や取組が10回以上新聞記事として取り上げられた。学校評議員会、学校関係者評価委員会、保護者アンケート

		評価を教育活動の充実に生かしているか	話し改善に生かす。	ケート、学校評議員会		における意見を積極的に汲み取る。
	安全管理の徹底	危機管理意識が徹底され、安全な教育環境が保たれているか	危険箇所を日常的にチェックし改善する。事故や災害等に対して迅速かつ適切に対応する。	危機管理マニュアルを使った研修、安全点検の実施等適切な運用・管理 Q ネットとの連携	B	毎月安全点検を実施し、迅速に改善した。 危機管理マニュアルを使った研修を実施する。
学力向上	「生きる力」をはぐくむための教育環境・指導体制の充実	学力向上に向けた授業時間が確保されているか	授業振り替えによって自習ゼロを目指し、授業時間を確保する。	係を中心に授業振り替えを徹底し、自習にならないように調整する。	A	出張・年休等の振替を含めたすべての授業の管理を係が統括し、円滑な時間割変更を行った。自習にならない体制を保った。
		成績不振生徒に対する支援体制が充実しているか	考査成績の欠点生徒の数を昨年同時期より減らす。	定期考査前の1週間、学習会を実施する。	A	学習会を徹底して実施し、欠点者数を昨年比で半減させることができた。
		生徒の学習習慣を定着させるような支援をしているか	生徒に学習習慣が身に付くような、継続した課題を課す。	校内検定及び週末課題を毎週1回実施し、朝読書も毎日実施する。	B	校内検定は例年並みの実施ができた。週末課題も提出率が高かった。学習意欲を高める工夫が必要である。
確かな学力の育成に向けた授業研究	P D C A サイクルによる授業改善が行われているか	シラバス及び生徒による授業評価活用した授業改善を進める。	シラバス及び観点別評価の工夫を行う。生徒による授業評価を年2回実施する。	B	シラバスを用いたガイダンス、保護者への説明を行った。授業評価は、改善策を各教科・科目で検討する機会を設けたい。	
	「わかる授業」を目指した授業研究が行われているか	研究授業及び参観授業を計40回以上実施し、教科指導力を高める。	習熟度別授業、ICTの活用を推進する。教科の枠を超えた TT授業 を研究する。教育フォーラムを実施する。	B	教科の枠を超えたTT授業を6回実施した。教科横断的な学習の方向性を提起することができた。 教育フォーラムは、保護者・地域との連携を深める構成へ改善したい。	
進路指導	キャリア教育の推進	生徒自らが職業や将来設計について考えているか	体験的活動を通して望ましい勤労観・職業観を育成する。	キャリアガイダンス、インターシップの実施、報告書による事後指導	B	2年生全員がインターシップを経験した。対効果を考え今後は見直しを図りたい。
	進路意識の高揚	生徒が主体的に進路を選択	二年次3学期までに、就職	進路マップ、進路希		進路マップでは毎年下位層が減少し

		しようとしているか	希望者は具体的業種を、進学希望者は具体的上級学校を明確にさせる。	望調査、 TT授業 の推進	B	てきており学力の向上が見て取れる受験後進路マップ検討会を開催し、今後の指針を検討した。
			最新の進路情報の提供	毎月1回進路便りを発行する。	A	定期的に発行し、生徒や保護者に様々な角度から進路情報の提供ができた。
	多様な進路希望の実現	就職希望者への指導は適切か	3年間を見通した指導計画に基づき、進路別学習に取り組む。	面接指導	B	受験先が決まった生徒に対して全職員で面接指導をしていただいた。進路決定に苦慮している生徒には個別面接をして細かくケアをした。
		進学希望者への指導は適切か		対外模試、朝課外	A	1人1人の進学希望者に対して多くの教師がかかわり、結果をだすことができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	時間を守った生活ができているか	一日の遅刻の平均数 0.3 人以内を目指す。	昇降口指導を毎日実施し、月ごとに集計結果を公表する。	A	平均遅刻者数は一昨年度 0、34 人、昨年度 0、25 人、本年度は 0、1 人以下 (0、06 人) と年々減少傾向にある。
		服装規定を守った健全な身だしなみであるか	頭髮服装検査における違反者、平均 15 人以内を目指す。	「エチケットカード」に保護者記入欄を設け、連携して指導に当たる。	B	平均で 12、0 人/回 (昨年度 12、1 人) で目標は達成した。 「エチケットカード」保護者欄の導入により家庭との情報共有ができた。
		元気のよいあいさつをしているか	立ち止まってあいさつができる生徒 60 %以上を目指す。	昇降口登校指導(毎日)と声かけ指導(週1回)を実施する。	B	校内での生徒の状況から、数値目標は達成できたと思われる。しかし更に根気強く丁寧な指導に努め 100 %を目指したい。
	道徳心の育成	健全な規範意識が高まっているか	全校終礼での教師講話を実施する。	在り方生き方に関する講話	A	生徒の落ち着いた生活状況から、講話等が役立っている。今後は地域の有識者による講演等を計画したい。
		ボランティア活動に意欲的に参加し、社会で果たすべ	参加率 60 %以上を目指す。	生徒会を中心に準備を行い、その都度出席率	B	年間参加率は 80、18 %と数値目標を大きく上回った。更なる数値向上を

		き役割を自覚しているか		を公表する。		目指したい。
	生徒会活動の活性化	学校行事に主体的に参画し、達成感を感じているか	体育大会・文化祭を日曜日開催とし、地域社会から評価してもらう。	体育大会でマスをゲームを実施する。文化祭では県立学校実習製品の販売をする。	B	マスゲーム実施により生徒の連帯感や達成感を十分引き出した。行事の休日開催により地域との交流が密になったが、まだまだ事前案内等に改善の余地があると思われる。実習製品の販売は好評であり今後も継続したい。
		部活動における学年を越えた交流が活発に行われ、充実感を感じているか	部活動加入率100%、体育系部活動加入率60%以上を目指す。	「部活動の日」を毎月2回実施する。高校総体・総文後、部活動を再編する。	B	加入率の数値目標は達成できた。部活動の日については行事精選の絡みで月1回の実施にとどまった。部の再編については来年度への継続課題となった。
	交通安全教育の徹底	交通違反・事故が減少したか	交通違反・事故数が年間10件以内を目指す。	実技講習会（免許取得者全員）、原付バイクの安全点検、違反者特別講習会	B	違反はなく、事故報告が1件1名(昨年度5件5名)しか挙がっておらず、安全教育への取組成果があがっているといえる。更なる徹底を図りたい。
人権教育	人権感覚の育成	「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになったか	「できるようになった」を50%以上にする。	人権教育ブロック別研究協力校としての諸実践	A	人権教育ブロック別研究協力校の発表をおこない、高森高校の取り組みを紹介することができた。
	推進体制の確立	人権教育の意義や目標が共有化され、組織的に推進されているか	教科等指導、生徒指導、学級経営など、教育活動全体を通じて推進する。	毎週1回推進委員会を実施し、推進上の課題を検討する。	B	推進委員会で情報を共有し、予定されていた教育活動や職員研修を実施することができた。
特別支援教育	推進体制の確立	特別支援教育の意義や必要性が共有化され、組織的に推進されているか	毎月1回特別支援教育委員会を実施し、対象の生徒に対して連携して指導する。	特別支援教育委員会、特別支援会議の実施	B	特別支援教育委員会は毎月実施できた。これまでもの取り組みにより、支援体制も充実してきている。今後は、人権教育との結びつきを持った組織づくりを行う必要がある。
	生徒理解の	生徒一人一人	学期に1回以	生徒理解研		本年度は、学年毎

	充実	の教育的ニーズを把握し、それに基づいた支援が検討されたか	上生徒理解研修を実施する。	修 グループウェア上の日常的生徒観察（気づきメモ）、特別支援報告会 TT授業 の実践	B	での生徒一人一人に対する把握がしっかりとできていた。また、生徒理解研修を実施することで、支援が必要な生徒の状況報告や共通理解は十分にできた。それ等の事により、 TT授業 の実践などの新しい取り組みもできた。職員間の連携が今後益々大切になる。
	保護者との連携	特別支援教育の意義や必要性が保護者に理解されているか	特別支援教育に関する情報を適切に提供する。	特別支援教育便りの発行（毎学期）。保護者や外部機関を交えた特別支援会議を実施する。	C	担任と保護者間の密な連絡等や外部機関を交えた、支援会議によって、支援が必要な生徒に対する保護者の理解は十分に図られている。しかし、その他の保護者への特別支援教育の意義や必要性を発信することは十分に出来ていない。
環境教育	環境保全に寄与する態度の育成	人間と環境について正しい認識を持っているか	環境問題に関して教科を関連させた授業を体系的に行う。	教科等で扱う環境問題に関する教材の一覧を作成する。環境汚染状況調査	B	環境教育に関する学習の計画は、シラバスの項目として入れるよう工夫した。今年度も家庭科で環境汚染状況調査を行った。
		環境保全の重要性を理解しているか	阿蘇の自然を基に環境問題学習を行う。	南阿蘇アクティブプロジェクト TT授業 の実践	B	1学年において、廃棄物処理施設の見学やビクターセンター研修等を行うことができた。
健康教育	食育の推進	健全な食習慣を身に付けるための学習がおこなわれているか	食育旬間における取組、朝食摂取率 85%以上を目指す。	会食の日、さつま芋の植付・収穫・調理等の体験活動 食育旬間の実施 後援会便りに「食育通信」連載 TT授業 の実践	C	朝食摂取率 79%と目標には及ばなかったが、会食の日や地域の協力も得ての栽培・調理等を通して、食生活への意識が高まった。後援会便りで保護者にも取組を発信できた。 食物検定4級の合格率改善に向けた取組を工夫したい。

※評価項目の数・内容については、各学校の実態に合わせ自由に設定してください。

（複数枚になってもかまいませんが、重要度の高いものを中心に、項目を整理して記入してください。）

4 学校関係者評価

学校関係者評価委員会において、自己評価の結果に関して以下のような御意見をいただいた。
(全体的な意見)

アンケートを見ると、自己評価も外部評価も年々向上している。今年度も昨年を上回っており、高いレベルで定着した感がある。体育祭、文化祭などを見ても、ほとんど全ての生徒が真剣であり、離脱する生徒がいないのは素晴らしい。

(特に生徒募集に関する課題)

(1) 高校生の数が少ないのは地域の経済活動にも大きなマイナスである。地域の活性化は高校の活性化と結びついている。地域との連携によく努力しているが、それが十分知られていない面があるので、広報活動に更に力を入れるべきだ。

(2) 6年ぶりの国公立大学合格、しかも4名の合格者が出たことは格好の宣伝材料になる。進学や就職の状況について、親の関心が高いので、積極的にアピールする必要がある。

(3) 体育大会、教育フォーラム等の行事に実際に参加し、感動した。管内の中学生や保護者を招待してはどうか。

(4) 高森高校の良さを発信する機会を保護者会が作るなど、保護者を通じた情報発信を積極的に行う。

(5) 文字情報だけでなく、テレビ等のメディアを使った広報戦略も必要である。

5 総合評価

評価項目の大半が「B」評価以上であり、学習指導、生徒指導、進路指導等が、学校全体としてバランスよく機能してきている。

(1) 授業の充実については、「分かる授業」を実践し、生徒に基礎・基本を定着させることができた。今年度は特にティームティーチングを目玉として授業力の向上に努めた。

(2) 生徒の進路保障については、進路指導部・学年部が連携してキャリア教育を推進し、今年の卒業生の進路決定率は100%であった。特に6年ぶりの国公立大合格を果たし、4名の合格者を出したことは特筆すべきである。今後は、国公立大学合格が毎年継続する指導体制を構築することが課題である。1年次より、3年間を見通した適切な進路指導を行っていく。

(3) 道徳教育の充実について、生徒指導部を中心としたきめ細かな取組の結果、生徒の規範意識が向上し、礼節にかなった落ち着いた生活を実践している。懲戒規定による訓告処分は年間を通して携帯電話所持の1件のみであった。

(4) 環境教育の充実については、特に1年次の総合的な学習の時間(南阿蘇アクティブプロジェクト)において環境保全の重要性を理解させることができた。

6 次年度への課題・改善策

(1) 広報活動の更なる充実。国公立大学合格、就職率100%などの進路情報をはじめ、本校の取り組みについて、積極的にアピールする。

(2) 1年次からの組織的な進路指導体制を構築する。

(3) 地域との連携を今以上に図り、積極的に情報発信をして理解を深める。

(4) 自己評価が「C」であった項目については、以下のとおり改善する。

ア 食育の推進について、朝食摂取率が79%であり、目標の85%に及ばなかった。生徒だけでなく、保護者に対して食育についての啓発に努める。

イ 特別支援教育に関する保護者との連携については、年度当初に連携計画を作成するなどして、連携の強化を目指した具体的な取り組みに努める。